

# 平成30年度札幌市食育推進会議

## 議 事 録

日 時：平成30年8月3日（金）午前10時開会  
場 所：WEST19（札幌市保健所）2階 大会議室

## 1. 開 会

○事務局（小田原健康企画担当部長） まだいらっしゃっていない出席予定の方がいらっしゃいますけれども、定刻となりましたので、これより平成30年度札幌市食育推進会議を開催させていただきます。

会長による議事進行までの間、進行を務めさせていただきます事務局の保健所健康企画担当部長の小田原でございます。よろしくお願いいたします。

これより先は、着座にて進行させていただきます。

初めに、本日の委員の出席状況を報告いたします。

委員21名のうち、まだ到着していない方が3名いらっしゃいますけれども、現在14名の方に出席をさせていただいております。札幌市食育推進会議条例第7条第2項により、委員の過半数により会議が成立するとなっておりますので、本日の会議は成立しております。

これより、お手元の会議次第に沿って進行させていただきますが、会議の終了時刻は12時ごろを目途とさせていただいております。ご協力につきまして、よろしくお願いいたします。

また、本会議につきましては、札幌市情報公開条例の規定により、市民へ公開することを原則といたしますので、会議録を札幌市のホームページ上で公表する予定としております。つきましては、会議内容を録音させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、お手元に配付をしております資料の確認をさせていただきます。

会議の次第、食育推進会議の座席表、委員名簿、食育推進会議条例、札幌市附属機関等の設置及び運営に関する要綱、続きまして、まちなかマルシェ「円山公園マルシェ」と書いた1枚物、同じく、まちなかマルシェ「エキヒロマルシェ」と書いた1枚物、さらに、資料2の妊婦さんの食生活のポイントというリーフレット、資料3は野菜摂取量をふやすためにと書かれたものです。資料4は、減塩でおいしい野菜レシピと書かれたリーフレットです。さらに、資料5として、CENTURY TIMEと書かれたリーフレットのほか、資料1としては、取組の状況をまとめたものを事前に皆さんにお送りしております。また、本日、第3次札幌市食育推進計画の本書のご持参もお願いしておりますが、こちらも使用を予定しております。

資料の不足等はございませんか。

## 2. 挨拶

○事務局（小田原健康企画担当部長） それでは、会議の開会に当たりまして、札幌市保健福祉局医務監の矢野よりご挨拶を申し上げます。

○矢野保健福祉局医務監 皆さん、おはようございます。

札幌市保健福祉局医務監の矢野でございます。

本日は、お忙しい中、このように皆様にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

また、皆様には、日ごろから札幌市の食育の推進にご尽力をいただいておりますことに、改めて感謝を申し上げます。

昨年、皆様にご審議いただきまして第3次札幌市食育推進計画を策定し、この4月から計画をスタートさせたところでございます。

第3次計画では、基本理念を「食を通して豊かな人間性を育みます」としまして、健康寿命の延伸を目指した食育、若い世代に力を入れた食育、環境に配慮した食育、さらに、食の安全・安心の確保の推進、食文化の継承と食環境整備などを重点取組として、今後5年間推進してまいります。

推進の目安となります指標は、前計画より8項目ふやしまして23項目としております。この達成に向けまして、家庭や地域のほか、皆様が所属されております食育関係団体や関連機関がそれぞれのお立場で食育を推進していただき、私ども行政が総合的、計画的に皆様の活動を支えていくことが重要であると考えております。

皆様におかれましては、本日の会議の中で忌憚のないご意見をいただきますとともに、今後とも札幌市の食育の推進のために一層のお力添えを賜りますことをお願い申し上げます。ご挨拶にかえさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

### 3. 出席委員紹介

○事務局（小田原健康企画担当部長） 続きまして、次第3番の出席委員紹介に入ります。

まず、平成30年度から新たにご就任いただきました委員の皆様をご紹介します。

委員名簿をごらんください。

札幌市立高等学校・特別支援学校校長会及び札幌市小学校長会からご就任いただきました2名の委員が平成30年3月末日をもってご退職されましたことから、それぞれの校長会に後任の委員をご推薦いただき、北海道札幌藻岩高等学校長の阿部孝則委員、札幌市立稲穂小学校長の渡辺聡委員にご就任いただいております。

また、札幌市PTA協議会と一般社団法人札幌市私立幼稚園連合会の役員改選により、新たに、大江紋委員、太田真理委員にそれぞれご就任いただいております。

本日ご出席いただきました新たな委員の皆様の机上には委嘱状を用意させていただいております。よろしくお願いいたします。

それでは、昨年の食育推進会議以来、しばらく時間が経過しておりますので、本日ご出席いただいております委員の皆様をご紹介します。

私からお名前をお呼びいたしますので、恐縮ではございますが、その場でお立ちいただきたいと思っております。

まず最初に、本会議の会長でいらっしゃいます札幌保健医療大学保健医療学部栄養学科教授の荒川義人委員でございます。

以下、委員名簿に従いまして、50音順にご紹介させていただきます。

札幌市立高等学校・特別支援学校校長会の阿部孝則委員でございます。

続きまして、市民公募委員の飯田昇委員でございます。

続きまして、札幌市環境アドバイザーの石塚祐江委員でございます。

続きまして、札幌市食生活改善推進員協議会会長の市野美砂子委員でございます。

続きまして、札幌市PTA協議会副会長の大江紋委員でございます。

続きまして、一般社団法人札幌市私立幼稚園連合会振興委員長の太田真理委員でございます。

続きまして、札幌市調理師団体連合会副会長の緒方昭彦委員でございます。

続きまして、一般社団法人札幌市医師会の岡村暁子委員でございますが、岡村委員からは遅参する旨のご連絡がございましたので、まだ到着しておりません。

続きまして、一般社団法人札幌市私立保育園連盟総務副部長の菅井知子委員でございます。

続きまして、一般社団法人札幌歯科医師会理事の高橋一行委員でございます。

続きまして、公益社団法人札幌消費者協会副会長の行方幸代委員でございます。

続きまして、一般社団法人札幌市食品衛生協会専務理事兼事務局長の西本裕子委員でございます。

続きまして、一般社団法人札幌市中央卸売市場協会代表理事の武藤修委員でございます。

続きまして、全道技術・家庭科教育研究会副会長の柳澤緑委員でございます。

続きまして、社団法人全国調理師養成施設協会北海道地区協議会代表幹事の山口伸矢委員でございます。

続きまして、公益社団法人北海道栄養士会会長の山部秀子委員でございます。

以上の委員の皆様方に出席をいただいております。

また、事務局としまして、札幌市の食育推進関係課の職員も出席しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、矢野医務監につきましては、この後、公務の予定がございますので、ここで退席をさせていただきます。

〔矢野保健福祉局医務監は退席〕

○事務局（小田原健康企画担当部長）では、これより議事に移りますので、荒川会長に会議の進行をお願いしたいと思います。

荒川会長、よろしくお願いいたします。

#### 4. 議 事

○荒川会長 それでは、改めて、よろしくお願いいたします。

それでは、早速ですが、次第に沿って進めさせていただきます。

ご承知のとおり、昨年この会議におきましては、平成28年までの食育推進計画の評価と平成30年からの第3次食育推進計画の原案づくりを並行して進めていただいたところですが、最終的に平成29年の評価がまだ残っておりましたので、その部分につきまして、最初に事務局から説明をいただきたいと思っております。お願いいたします。

○事務局（榊原食育・栄養担当課長） おはようございます。

食育・栄養担当課長の榊原と申します。

この4月から参りましたので、よろしくお願いいたします。

それでは、第2次札幌市食育推進計画に基づいて食育推進関係課で行った平成29年度の取組についてご報告させていただきます。

お手元の第2次札幌市食育推進計画関連事業・取組一覧をごらんいただきたいと思っております。

資料の記載方法としましては、事業内容が一番左側に記載されております。続いて、事業名、実施している局、施策番号、整理ナンバーとなっております。目標が達成されているものについては、二重丸（◎）をつけております。目標値に向かって推移しているものは丸（○）、変化なし、もしくは、目標から遠ざかっているものには三角（△）をつけております。

九つの重点取組と、それに基づく19の主な施策の事業評価から抜粋してお伝えさせていただきます。

まず、1ページです。

重点取組の一つである食育への関心を高め、健康な食習慣の確立の規則正しい食習慣の習得に向けた取組として、整理ナンバー2の学校給食の実施から、2-3の家庭教育事業があります。これは、教育委員会の取組でございます。学校では、教科、特別活動などにおける食に関する指導の充実を図り、望ましい食習慣の形成に努めていただいております。また、給食便りや給食試食会、さらに、PTAと連携して保護者への啓発を図っております。

続いて、2ページをごらんいただきたいと思っております。

整理ナンバー3は、主な施策の規則正しい食習慣の習得に向けて、子ども未来局が行っている早寝早起き朝ごはんの取組です。取組施設数、ホームページ更新回数ともに二重丸（◎）でした。

続いて、飛びますけれども、7ページをごらんいただきたいと思っております。

主な施策の栄養バランスのとれた食事の普及啓発・実践に向けた取組といたしまして、整理ナンバー14-1は、栄養成分表示の店・特定給食施設（事業所）への支援でございます。栄養成分表示をする店や、ヘルシーメニューを提供する事業所をふやすことで、栄養バランスのよい食事を食べる人をふやすための取組になっております。栄養成分表示の店の登録店舗数は、この5年間では最も多い1,732店でございますが、目標の店舗数

にはちょっと届かないということで三角（△）でしたけれども、事業所給食施設支援については二重丸（◎）となっております。

続いて、9ページをごらんください。

この施策は、ライフステージに応じた食育の推進に向けた取組で、整理ナンバー17の乳幼児・保護者等の食育事業として、3歳児健診啓発数は二重丸（◎）、妊産婦教室参加者数は三角（△）でした。

続きまして、10ページの高齢者のための食生活指針啓発事業では、指針の啓発数、介護予防センターにおける指針を活用した高齢者の低栄養予防事業のすこやか食育支援事業の実施回数ともに二重丸（◎）となっております。

次に、整理ナンバー23、24の歯科関係の事業です。乳幼児期の虫歯予防事業は、参加人数の減少から三角（△）でした。しかし、11ページになりますが、高齢者のための口腔ケア事業については二重丸（◎）となっております。

続いて、12ページをごらんください。

施策は、楽しく食卓を囲む機会の拡大に向けた取組です。整理ナンバー25-2のたのしい保育所給食等の提供、保育所給食等を活用した食育の取組は、いずれも二重丸（◎）となっております。

また、整理ナンバー25-3の園便り・弁当参観などで普及啓発についても二重丸（◎）でした。

整理ナンバー25-6の家庭教育事業についても二重丸（◎）となっております。

続きまして、16ページをごらんください。

施策は、食を楽しむ環境づくりに向けた取組でございます。整理ナンバー34-1になりますが、農業体験などの食体験では、昨年度より9,000人ふえて、丸（○）でございました。

続きまして、飛びますが、21ページをごらんください。

ここは、食の大切さを伝える環境づくりに向けた取組でございます。整理ナンバー49の②消費拡大フェアは、来場者数が目標値を超える3万1,000人で、二重丸（◎）となっております。

続きまして、次の22ページをごらんください。

ここは、環境を考えた食生活の普及・啓発及び実践に向けた取組でございます。整理ナンバー50のGOMIマガジン等の発行・配布では、若い世代への啓発も大切として、一昨年度から保健センターで開催しております1歳6カ月健診において、食品ロスの軽減啓発リーフレットを来所者全員に配布するなど、配布数が伸び、二重丸（◎）となっております。

続いて、隣の23ページでございます。

整理ナンバー54は、さっぽろ学校給食フードリサイクル事業の取組でございます。リサイクル堆肥を使用した作物の提供は、全小・中学校で行われており、二重丸（◎）とな

っております。

続きまして、24ページをごらんください。

この施策は、食の安全に関する知識の習得に向けた取組として、整理ナンバー59の食の安全・安心イベント、隣の25ページの整理ナンバー61-2の食品衛生講習会等では、食の安全への関心や理解を深めていただくために行われた事業で、いずれも二重丸(◎)となっております。

続いて、30ページをごらんください。

ここは、「農」とのふれあい促進に向けた取組として、整理ナンバー75のさとらんど農業体験ですが、市民参加数は三角でございますけれども、体験小学校等は目標を上回っており、二重丸(◎)となっております。

続いて、39ページをごらんください。

主な施策は、消費者と生産者の総理解促進に向けた取組でございます。整理ナンバー102のさっぽろオータムフェストの実施では、平成29年度は、203万人を超える来場者がありまして、二重丸(◎)となっております。

以上、平成29年度に行いました取組の評価対象205項目のうち、二重丸(◎)は145個、丸(O)は11個、三角(△)は44個、現時点での未集計項目が2事業、評価しない項目が3事業となっております。事業の全体の達成率としましては71.8%となっております。

以上でございます。

○荒川会長 ありがとうございます。

今、主な項目について、また、全体の概要についてもご説明いただきまして、総事業のうちの大体72%ぐらいが達成されたということでした。

ご説明のあった部分、また、お目通しいただいた部分で、皆様からご質問やご意見があればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○高橋委員 1ページ目の前の施策の体系のところは、全て非常にすばらしい取組だと思われまして。その中で、基本目標2の(2)の食の安全・安心の確保のところですが、今、口頭でのご説明はなかったように思いましたが、25ページのところで、食の安全というのは我々にとっても非常に関心の高いものだと思われましてけれども、整理番号61-1は、平成29年度の評価が二重丸(◎)となっております。これは、講座数が前年の11回から9回になって、累計の人数が327名に対しまして、29年度が227名ということですが、これは1年間に参加された市民の方の人数ということでよろしいでしょうか。

それでありましたら、300人に対しまして100名の減ということですが、評価が二重丸(◎)となっておりますので、この評価方法についてお聞きしたいということが1点です。

もう一点は、27ページにいろいろな取組が書いてありまして、その中で、上から2番

目の整理番号67にHACCPに取り組んだことが記載されております。こちら、前年度から比べると大幅に数が減っているように思います。平成28年度は突出して高い数字となっておりますので、取組が分散したのこういうふうにならぬのか、その辺がちょっとわかりませんが、こちらの評価も丸(○)となっております。

ばらつきがあるものに対する評価のあり方につきましてお教えいただきたいと思っております。

○事務局(吉津食の安全推進課長) 保健所食の安全推進課の吉津でございます。

まず、講習会のところにつきましては、確かに年によって数にばらつき等はございますが、目標値を達成しているということで、二重丸(◎)がついている状況になっております。

○事務局(川西調整担当係長) 続きまして、さっぱりHACCPの関係をご説明させていただきます。

まず、こちらの事業は、HACCPに取り組んでいる事業者を評価、認証する制度ということで、札幌市独自の事業として行っているものでございます。

平成28年度に突出して数が多い部分については、本来、HACCPは、個別の施設ごとに評価、認証をしていく体系でやっていたが、コンビニエンスストアのように統一したルールで行っているような本部機能のある事業者を対象に一括で登録する本部認証制度を28年度末に策定しまして、その関係で、その年に一気に数が増えております。通常ですと、例年、目標として掲げているぐらいの数字の登録認証を目指しておりますが、この年にその制度を新設した関係で突出して多くなっております。

○荒川会長 ありがとうございます。

ほかに何かございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○荒川会長 それでは、何かありましたら、また後ほど伺いすることにします。

それでは、議事(2)第3次札幌市食育推進計画についてのアの概要説明を事務局からお願いしたいと思います。

○事務局(榊原食育・栄養担当課長) 続きまして、昨年度、皆様に作成いただきました第3次札幌市食育推進計画について、改めてご報告をさせていただきます。

これから特に強化して取り組んでいくことや継続して取り組んでいくこと、新規の事業等を抜粋してパワーポイントにまとめさせていただいております。

まず最初に、第3次札幌市食育推進計画の策定につきましては、昨年度の6月、7月、9月の3回の食育推進会議を経て、答申書の手交、市役所内部の会議、市長、副市長への説明を行って、3月に公表しております。

パブリックコメントを昨年12月11日から1月10日まで実施いたしまして、大人用の意見、子ども用の意見に分けて募集を行っております。

寄せられた意見につきましては、大人が21件、子どもが178件ございました。

意見の概要とその回答については、ホームページで公表させていただいております。



次に、札幌市の食育の現状と課題ですけれども、お手元の食育推進計画の本書では6ページから27ページに整理して掲載させていただいております。

昨年度の会議でも皆様にお伝えしております、そのうちの幾つかでございますが、食育に関心のある人の割合は、女性のほうが高い傾向、男性と若い世代では低い傾向にあります。

それから、適切な食生活の実践では、男性は20歳から40歳代の5割以上の人に食べただけ食べるという傾向が見られて、こういった部分も男性の肥満につながっているのではと思っております。

朝食の欠食は、小学校5年生では現状維持の状態、成人では、男女ともに、二、三十代の若い世代が高いということになっております。

次に、野菜摂取の現状でございます。これは、第2次の計画と同様に、20歳以上の目標量は350グラムとなっておりますけれども、男性で297グラム、女性で281グラムということで、もう一皿分ぐらいが足りないという現状になっております。

続きまして、先ほどもご紹介がありましたように、札幌市食育推進計画の基本理念は、食を通して豊かな人間性を育みますということで、食育の現状と課題を踏まえて、本書の28ページに基本理念と基本目標をまとめて掲載させていただいております。

ここからは、施策の展開の具体的な取組の中で力を入れて推進していく項目について幾つかご説明させていただきます。

31ページから33ページにある基本目標の健やかで心豊かな食生活の実現の重点取組【1】の①望ましい食習慣と適切な栄養摂取を進める具体的な取組としましては、栄養成分表示の活用、手軽にできる朝食の普及啓発、高齢者への食育の推進を強化して取り組んでいくこととしております。

まず、手軽にできる朝食の普及啓発ということで、特に若い世代の朝食の欠食を減らしていくことにつなげていきたいと思っております。できるだけ手間がかからないようなカット野菜、冷凍野菜とか迅速にできる調理の工夫とあわせて、健康寿命の延伸にもつながる食習慣として減塩習慣も身につけていって、取組も継続していきたいと思っております。

次に、加工食品ですけれども、平成32年3月までに栄養成分表示が食品に義務づけられます。なので、この栄養成分表示を活用することは、健康管理にも役立ち、生活習慣病の予防につながることから、この栄養成分表示の活用の啓発を行っていききたいと思っております。

続きまして、33ページの同じく基本目標の健やかで心豊かな食生活の実現の重点取組【1】の②栄養バランスのとれた食生活の実践では、副菜である野菜摂取の啓発と牛乳乳製品に関する情報提供を強化した取組を行うこととしております。主食、主菜、副菜をそろえた食事をするということで、1日3回の食事でも2回以上は主食、主菜、副菜をそろえて食事する人をふやしていきたいということで、取組を進めていきたいと思っております。

また、もっと野菜を食べましょうということですが、なかなかふえていない現状なので、

強化をしていきたいということで、このたび、お手元にセンチュリーロイヤルホテルさんのチラシがあります。8月の野菜強化月間にあわせて、北海道や札幌市でとれるお野菜を使った「フレッシュ！！夏野菜フェア」を1カ月間行うということで、センチュリーさんからご協力の依頼がありまして、ここのロビーで野菜摂取強化月間のパネル展を1カ月間させていただいております。チラシの裏には、札幌市のパネル展を開催しますとか、野菜の日ですということで載せさせていただいて、ご協力をいただいているところです。

それから、牛乳乳製品をもっととりましょうということで、小・中学校、乳幼児の成長期に欠かせないカルシウムの摂取について、引き続き、各保健センター、保育所、学校、幼稚園等で啓発をしていただきたいと思いますと思っております。

次に、35ページ、36ページの若い世代を中心とした食育の推進の中の次世代につなげる食育の推進でございます。高校生のための食生活指針を今年度に作成いたします。昨年の食育推進会議の中で、ライフスタイルが変わる高校3年生に啓発をしてはどうかというご意見をいただいたところで、計画の中ではそうなっておりますが、保健体育や家庭科などの教科の中でも活用していただくために、高校1年生の啓発が望ましいというアドバイスをこのたび阿部委員からいただきましたので、計画では高校3年生となっておりますけれども、高校1年生に配付をしていきたいと考えております。

また、妊産婦訪問時の啓発では、同じく昨年度の食育推進会議の中でご意見をいただきまして、札幌市中央卸売市場協会様が広告事業として作成した啓発資料を今年度から助産師の訪問のときに配付を開始しております。それが資料2の妊婦さんの食生活のポイントという資料でございます。これを助産師の妊婦訪問のときに配付をしていただいているところです。

次に、野菜を多く薄味で、乳製品もということで、これは新規の事業でございまして、同じく昨年度の食育推進会議のご提案をきっかけに、大型スーパーのスペースをおかりしまして、食品メーカーと連携し、薄味の野菜料理や乳製品を使った野菜料理の試食と、ミニ食育教室を開催していきます。今年度は、9月から10月にかけて6回行う予定となっております。

次に、本気（マジ）めしプロジェクトでございまして。継続事業で平成27年度から実施している若い世代に向けた食育事業ですが、実施回数をふやしていく方向で予定しているところです。

続きまして、38ページの重点目標【3】の多様な暮らしに対応した食育の施策の楽しく食卓を囲む機会の拡大でございます。共食の機会、場所の情報提供を新規の取組として行っています。共食につきましても、子どもだけではなく、さまざまな世代の市民が共食の大切さを理解し、実践につなげられるという情報提供も行っていく予定です。

次に、40ページの主な施策の食を楽しむ環境づくりでは、保育所、幼稚園等の園庭での野菜栽培や収穫体験についても、作物を育てて調理をして食べるという一連の流れが子どもたちの食育にとっても重要であることから、今後も継続して行っていただく予定になっ

ております。

続きまして、41ページの主な施策である環境を考えた食生活の普及・啓発及び実践です。ごみの減量やリサイクルの推進のため、啓発資料での啓発イベントを行っていく予定です。

また、一番下に書いてありますが、2510（ニコッと）スマイル宴事業ということで、宴会が始まってから25分と終了前の10分間は席を立たずに食事を楽しみ、食品ロスをなくすという取組を啓発していくことを新規事業としております。既に昨年までに市役所の中の各部署の宴会ではこれを取り入れて、実施してきているところでございます。

次に、環境に配慮した食生活の推進ということで、42ページのさっぽろ学校給食フードリサイクルの取組を継続して行っていきます。この取組は、平成18年のときから行っていて、10年間を経て、フードリサイクル堆肥を活用して作物をつくる学校も年々ふえて、この取組を推進していただいています。

次に、43ページの重点取組【2】の食の安全・安心の確保の推進でございます。

食の安全に関する知識の習得では、市民に向けての取組を進めていきます。大分おなじみになっていると思いますが、しろうま忍者の手あらいソングということで、子どもへの食の安全に関する正しい知識の普及啓発ということで、未来を担う子どもたちに向けて、日常的に安全で衛生的な食習慣を楽しく身につけてもらう啓発や、食の安全に関する正しい知識の普及啓発をさまざまな年代にわたって啓発していく予定になっております。

続きまして、46ページ、47ページの主な施策である「農」とのふれあい促進でございます。子ども学習農園での活用や市民農園の開設など、札幌の農業や農産物に関する理解の促進では、「さっぽろとれたてっこ」認証農家をふやすなどの取組を進めていきます。

次に、48ページ、49ページでございます。食文化の継承と食育推進体制の整備の重点取組を三つ設けているところです。市民が集まり、食育活動が行える調理室等の情報提供は、今年の食育推進会議で出されました意見を踏まえまして、今後もホームページで情報発信をしていきます。

51ページの重点取組【2】の具体的な取組①のさっぽろ食スタイルの普及・啓発でございます。栄養バランスのとれた健康的な食事に地産地消とエコの要素を取り入れたさっぽろ食スタイルの普及啓発をさらに強化していきたいと考えております。

53ページの重点取組【3】の地域における食育推進体制整備は、56ページのコラムにありますとおり、主な施策の市民運動としての食育の推進で、このたび、ロゴを作成し、野菜の日、栄養の日、食育の日を積極的に周知して、食生活を見直す機会として啓発をしていきたいと思っております。

56ページの重点取組【3】の主な施策の食育ボランティアの育成・支援について、食育ボランティアをふやすことにつながる取組を積極的に進めていきます。食生活改善推進員協議会の活動の中で、身近な地域において、いろいろな料理教室を通じまして普及啓発に努めていきたいと思っております。

以上、この計画につきましては、家庭、地域、さらに、さまざまな関係機関・団体と連携して進めるとともに、食育推進会議での進捗確認、評価、見直しを行いながら、2022年までの5年間の計画として推進していきたいと思えます。

ご協力をよろしくお願いいたします。

○荒川会長 ありがとうございます。

4月から既に第3次の計画が進められているところですが、昨年にご審議いただきましてまとめたこの第3次計画のご説明をいただきましたが、新しい委員もおられますので、改めてご意見、ご質問があれば、ぜひお願いしたいと思います。

○菅井委員 34ページの牛乳・乳製品の適量摂取の啓発というところで、保育園の現場での現状も絡めて、もう少しこういうふうになればなと思ったことが二つほどあります。

一つ目が、これは以前からですが、牛乳と乳製品に関しては、アレルギーで摂取できないお子さんが少なからずいて、どちらかというふうにふえてきている感じがしています。保育園ですと、カルシウムの摂取のために、代替の食品等の情報提供はあるのですが、3歳未満でまだどこにも属していない家庭にいらっしゃる牛乳アレルギーをお持ちのお子さんだったりすると、そのカルシウムの代替品をこういうふうにするというように、もしかすると保健センターなどで健診の際に情報提供されていると思うのですが、そういう方もいらっしゃるの、そこは工夫が必要ではないかと思いました。

もう一つは、保育園では、ゼロ歳児からおりますので、満1歳を過ぎてから牛乳が飲めるような指導をしていくのですが、その際に、自分が牛乳を飲むとお腹がごろごろするので、子どもに牛乳を飲ませたくないという親御さんも少なからずいらっしゃいます。残念だなと思ったのは、そうおっしゃる親御さんの職業が小学校の先生だったりするのですね。そうすると、頭ではわかっているのだけれども、実際に自分の子どもに飲ませるのには抵抗があると。お子さんは牛乳のアレルギーがあるわけでも何でもないのですが、そういう意識がある方に対して、お父さん、お母さんがお腹がちよとごろごろするとしても、お子さんは何ともないと言ったら変なのですが、こちら側からも保護者に声かけしやすいような、すんなり取り組んでいただけるような資料があると助かると思えました。

どうぞよろしくお願いいたします。

○石塚委員 私もその質問をしようと思っていて、ちょうど55ページにアレルギーの実態アンケートをすることについての現状把握があるのですが、把握だけではおさまらないので、対策についていろいろと情報が欲しいのです。牛乳もそうですし、柑橘系もあるし、リンゴからナスからトマトからたくさんあり過ぎます。私もカフェをやっている関係で、そうでない方への対策、そうでない代替ということについて、今後、第3次の中でどう考えていくかということと同じくお聞きしたいと思っていました。

もう一点、ちょっと外れるかもしれませんが、アレルギーに関連して、学校給食の学乳パックは、アレルギーが原因でリサイクルをしなくなった学校がふえてきているのです。

飲まない子は飲まないでいいと思っていたのですが、飲まない子がパックを洗わないことで不公平感があって、牛乳パックのリサイクルをやめていく学校が最近ふえてきているのです。こういう場合は、アレルギーを持っているお子さんは、別にその子が悪いわけではなくて、教室の中でその子ができない分をみんなで補うということがある分、別な方向での教育ができるはずなのに、アレルギーということで全てをシャットアウトして、数人のアレルギーの子のために全校が学校給食の学乳パックのリサイクルをしなくなってきたという現状があります。

第3次食育推進計画は、環境も含めた、ごみ減量も含めたさっぱり食スタイルというふうにつくり上げられているということで私も参加しているので、このような現状についてもあわせてよろしくお願ひしたいと思ひます

○荒川会長 事務局のほうで、お答えできる範囲でお願いします。

○事務局（榊原食育・栄養担当課長） アレルギー対応については、学校給食は学校給食の中でマニュアルを作成されていると思ひますし、保育園についても関係の委員がいらっしやいますので、どのように対応をしているかというご意見をいただければと思ひます。

また、保育園に行かないお子さんについては、4カ月、10カ月、1歳半、3歳の各保健センターで行っている乳幼児健診の栄養相談の中で、アレルギー対応についての相談を行ってきております。

また、牛乳パックの関係は、学校の取組となりますので、こちらからはお答えできませんけれども、そういった部門でそれぞれご対応いただいていると思ひております。よろしくお願ひいたします。

○岡村委員 先ほど、学校で牛乳パックを洗わなくなるというお話があつて、実際には、食物アレルギーの頻度は全体的にふえているのが現状です。牛乳アレルギーというのは、意外と症状が強いのです。飲む飲まないはもちろんですが、皮膚接触で症状を起こすお子さんも結構多いですし、ふしゅっとやったものがたまたま間違つてついでに症状を出してしまうお子さんが、ごく少数ではあるのですが、実際にはあり得るケースです。学校によっては、すごく強い牛乳アレルギーのお子さんは、給食の配膳や後始末のときには、万が一にもかかったら大変だから別教室に移動するという対応を迫られるような小学校があるのも現状です。かといって、その子がそういう対応をされて気持ちがいいかといつたら、実はよくないのだけれども、学校としては、万が一にも症状を出した場合には学校側が責任を問われてしまう現状もあり、危ないのだったらという苦慮した上での対応になっているという現場の話があります。

本当は、先ほどおっしゃつていたように、できるだけその子にかからないようにして、アレルギーのお子さんもふえていますので、アレルギーの友達がいるということを理解できるような社会というのが理想ではあるのですが、先生方も業務が多岐にわたつていて、かなり疲弊されていますので、危ないことはやめておきましょうという対策にならざるを得ないというのもある意味では理解ができると、仕事をしている上では思ひます。マンパ

ワーの問題で学校側が対応するのはいたし方がないのかなと実感しています。

また、菅井委員がおっしゃっていましたが、うちのクリニックでも、お父さんから、絶対に飲ませたくないで診断書を書いてくださいというような問い合わせも結構あるのです。そういう場合には、園長先生と個別にお話をして、説得するのは難しいということであれば、それなりの診断書を書いて、園と私たちが納得するというケースもあります。

これは、親御さんの性格もあるので、正直に言うと難しいというのが医療現場としての実態だと感じます。

○荒川会長 洗うか洗わないかの決定権は、今、現場に任されてしまっているのですか。

○岡村委員 そうだと思います。

○荒川会長 その辺で、一応のルールとして、そういうケースがあるので、そういうことが生じるということが全市的に共通理解できていれば、それが起きても、当然だなということがあってもいいかもしれません。現場だけの判断ではなくて、ルールというか、当然、そういうことが起きるので、洗わないことがありますよということを徹底させていただくと、いろいろな誤解が生じない可能性はあると思います。

○岡村委員 そうですね。

○荒川会長 今、お聞きしていて、当然だと思うのですが、それが現場だけに任されていると、いろいろと誤解が生じることになると思います。

事務局には、その辺をご検討いただいて、委員の皆様もいろいろとご意見があるようなので、現場との連携というか、誤解のないように共通理解を深めるということをお進めいただければと思います。よろしく願いいたします。

ほかはいかががでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○荒川会長 ありがとうございます。

この計画は、これから本年度も含めて5年間進めていきます。進捗状況につきましては、毎年、評価をいただきますので、皆さんもぜひ関心を持って食育推進にお努めいただければと思います。よろしく願いいたします。

続きまして、伊の議題の意見交換に入りたいと思います。

事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局(榊原食育・栄養担当課長) 意見交換に入ります前に、札幌市の食育関係課から食育に関する事業のご紹介をさせていただきたいと思います。

経済観光局農政部の高栗農政課長、よろしく願いいたします。

○事務局(高栗農政課長) 農政課長の高栗でございます。

少々お時間をいただきまして、農政部でやっている事業についてご説明させていただきます。

本日お配りいたしました2種類のチラシは、まちなかマルシェというもので、1枚が円

山公園、もう一枚が札幌駅前の南口広場で実施するものでございます。

このマルシェの農政部としての目的としましては、新規就農の方の販路がなかなか確保できないという問題がありまして、経営の安定を図るということを目的として、売る場所を確保しようということで、都心部でのマルシェを開催するものです。

一方では、消費者の立場に立ちますと、札幌市内でもこのような野菜がつくられていて、農家の方とお話をしながら買い求めることによって、野菜の消費拡大や、札幌の農業、日本の農業について理解を深めていただくという農業のPRという部分もでございます。

一番近いものでは、来週の土曜日の8月11日に円山公園で実施しまして、そのほかにも何日か日程がございますので、お近くにおいでの際には、ぜひ足を運んでいただければと思います。

どうしても農地が市街化調整区域にあるものですから、農業の顔が市民の方に見えないという現状がありまして、まちの中で販売する機会を少しでもふやしていきたいと考えております。

このまちなかマルシェのほかにも、今、パルコの前に「大通すわろうテラス」というものがあるのですが、そこでも月曜日と水曜日に農家の方が直売をしております。

そういった形で、農業について少しでも理解を深めていくように今後とも進めていきたいと思ひまして、ご紹介しました。

よろしくお願ひいたします。

○荒川会長 ありがとうございます。

今、ご紹介いただきましたマルシェとも関連するのですが、実は、第2次食育推進計画で非常に大きな課題が野菜摂取量の不足でして、幾らいろいろな活動をしてもなかなか伸びないという状況です。これは、札幌市だけの問題ではなくて、北海道全体の問題なのですけれども、きょうの意見交換は、野菜摂取に対して、効果的な打開策まではいかないと思ひますが、事務局からいろいろとご提案をいただきますので、よろしくお願ひいたします。

○事務局（榊原食育・栄養担当課長） それでは、野菜摂取量をふやすためにということで、資料3を用意させていただきました。

先ほどから何回も申し上げておりますように、5年前の調査から比べて野菜摂取量が伸びておりません。札幌市民の野菜摂取量は、成人1人1日当たりで、平成28年は5年前より5グラム減っている状況でございます。また、性別・年代別に野菜摂取量を比較いたしますと、男性のほうが野菜の量が多く、50代以降は特に多くなっております。

2番の野菜の摂取量と目標量の認知については、目標量を知っている人には、野菜350グラムを食べている人が多いことがわかっています。

次の2ページですけれども、(3)の野菜摂取目標量まで食べない理由について、農水省の関東農政局が平成22年に調査した結果によると、男性で最も高かった理由は、外食が多いから、次に、調理に手間がかかるからとなっていました。女性では、食べ切れない

からが最も多く、次に、調理に手間がかかるからとなっております。

3ページの(4)の食事形態の変化では、外食や調理済み食品の利用がふえてきている現状もございます。

それから、(5)の野菜摂取量と所得についてですが、国民健康・栄養調査を毎年行っているのですが、平成26年度の国民健康栄養調査の中では、所得と野菜摂取量の調査をクロス集計しております。その中では、野菜摂取量がふえない要因は、所得の違いなどによると推測していますが、第3次食育推進計画では、野菜摂取量は今まで一律350グラム以上となっていたのですが、幼児期、学童期を設けて、中学生以降は350グラムという目標値を設定いたしました。パブリックコメントの中では、子どもが350グラムは食べ切れないとか、中学生以上になっているのは多過ぎるみたいな意見も一部あったのですが、一律、目標値も成人350グラム以上としないで、そういうことで設けてきたところでは。

最後の4ページ目ですが、平成30年度は、先ほどもご紹介しましたがけれども、毎年8月に行っております野菜強化月間で、関係部局、関係団体、企業と連携して取組を進めているところでございます。

今年度、こうした形で取り組んでいるという実態を掲載させていただきました。それぞれの年代の野菜の摂取量を少しでも目標に近づけるために、どのようなことを行っていけばよいか、委員の皆様方から忌憚のないご意見をいただければと思っております。

よろしく願いいたします。

○荒川会長 ということ、札幌市では平成30年度はこのような取組を予定しておられるのですけれども、委員の皆様からも何か妙案があればお聞きしたいということでございますので、よろしく願いしたいと思います。

○岡村委員 先ほどご説明がありましたマルシェの取組は、すごくいいのではないのかと思っております。

私の家の近くでも、最近、土曜日などにカフェの目の前でお野菜を売っていて、道を行く人がすごくたくさん立ちどまって買われているのを見かけます。

去年に見かけたのは、ドラッグストアの駐車場に農家の方がいらっしゃって売っていて、そこにもやっぱりたくさん人がいたのを見かけました。普通にスーパーでも買うのでしょいうけれども、店頭販売をしていて、しかもパック詰めがされていなかったりすると、皆さんが立ちどまって意識するということがあると思います。

そうした場合に、やはり値段のことが関係してくると思うのですがけれども、私も栄養指導で野菜をふやそうというお話をお母さん方にしていましても、冬場は値段が高くてそんなにたくさん買えませんという声で冬場はひたすら苦勞します。値段の問題は難しく、栄養士と相談をして冬場に言うのは、乾物系の切り干し大根を利用するか、最近では冷凍の技術がすごく高まっていて意外においしかったりするので、そういうものを使ったレシピを栄養士と一緒に渡したりしています。



それから、またマルシェに戻ってしまうのですけれども、この写真のように見かけないお野菜があったりすると、そういう方々に小さい紙のメモでもいいので簡単なレシピがついていたりすると、それなら買ってつくってみようかなというきっかけになるのではないかと思いますので、そういうようなことで皆さんの関心を引いてもらうとか、生野菜以外を使う方法も宣伝するというやり方はあると思います。

○荒川会長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山部委員 私の本業は、大学に勤めていて、栄養士を養成しているのですけれども、養成している学生でさえ野菜をなかなか摂取しないのです。野菜を食べなくてはならないということを勉強していますので、意識とか知識ではよくわかっているのですが、学生が実習先に行ったときも、例えば保健センターで実習させていただいたら、来てくださった方に野菜をたくさん食べましょうねと言うのですけれども、自分の食生活を振り返ったときに食べられないというのは、金額の問題がすごく大きいようです。

今、マルシェの写真を見せていただくと、とても珍しそうな、おいしそうな野菜がいっぱい並んでいます。年齢が高い方とか、ある程度お金がある方がこのチラシを見ると、おもしろそうだから行ってみようと思うのですけれども、同じキュウリでも曲がったものは安いんですね。時々スーパーにあるのですけれども、そういう写真が載っているほうが、本当に安そうだなと思って買いに行けるのではないのかと思います。

若い世代の野菜の摂取が少ないので、ある程度お金のある高齢者よりも、もうちょっと若い世代をターゲットにした方法を考えるといいと思います。

アイデアと言うほどではないのですけれども、今お話があった中で、スーパーに来所した市民を対象として野菜の摂取に関する啓発というのがありましたね。こういうイベントは、大体は昼間にしているのです。そうすると、昼間に来られる人は限られていて、お仕事をしていない人が来て買い物をするのではないのかと思うのですけれども、夕方開催とか、仕事が終わってから行ったときでもできるようなイベントをご検討いただくと、もう少し若い世代の人に関心を持ってもらえるとと思います。

きつい言い方で、せっかくチラシをつくってくださった方には大変申しわけないのですけれども、そういう感想を持ちました。

○荒川会長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○石塚委員 私のところでは地域カフェをやっているのですけれども、ランチのときに、子どもを連れてくるお母さんが、ここで食べると子どもが野菜を食べるのですとか、いつもよりご飯をとっても食べるから、どんなお米を使っているのですかと聞かれるのですけれども、申し上げるほどのお米は使っていませんというぐらい普通のお店の普通のお米です。みんなで食べるからおいしいという話をよくするのですが、そのときに、ふだん食べない子どもが食べる、きんぴらだとか、サラダとかも、お母さんがレシピを聞いてくださ

るのです。私たちがレシピを伝えてあげると、こういうふうにつくると食べるのだね。例えば、ドレッシングも、市販だとなかなか決められているけれども、実は、自分でこうやってつくると、お野菜でドレッシングをつくって、お野菜を丸ごと食べられるのだよとか、ちょっとしたアドバイスでお母さんも今度からつくろうという形になってくるし、それが食を通じたコミュニティーに発展していきます。私どものカフェでは、それを実践させていただいて、とてもいい感じで食育をしております。

特に、スーパーに行くと、対面販売をして、そのお野菜でこんなふうに食べたらおいしいよと言うと販売が伸びるという話もよく聞きますので、つくり方を伝えられる環境にしていくということですね。

また、これを食べなさいと言うと食べないのですけれども、食べるとこんないいことがあるよと言うと食べる。例えば、トマトを食べると色白になるよと言っただけで、トマトを食べられなかった子が急に食べられるようになって、トマトジュースを飲むようになったとか、お肉ばかりを食べていると体臭が気になると思うけれども、お野菜を食べるとそういったおいとかもなくなるよと言うと、急にお野菜を食べるようになるのです。ですから、お野菜を食べるとこんないいことがあるよみたいなことがもっともっと伝えられるような仕掛けをするといいと思います。

○緒方委員 女性が多く答えてくれていますが、男性を代表して、私からも一言申し上げます。

フランスでは、市民の50%ぐらいがマルシェを利用しているらしいです。フランスは、日常生活の中にマルシェが組み込まれているようですけれども、日本においては、まだまだマルシェに近づいていないというのが実感です。

また、北海道におきましては、十勝地方がフランスのパリと緯度が大体同じぐらいだそうで、むしろ札幌よりも帯広あたりのほうがマルシェとしてたくさん出店しているようです。

話は変わりますが、私も家庭菜園をやしまして、最近、ズッキーニとかピーマンが少しとれています。うちの女房が、どうしたらおいしく食べられるのかと言うから、ラタトゥイユみたいなやつがいいのではないのか、教えてくれということで教えましたら、次の日から1週間ぐらいラタトゥイユが出てきまして、私はうんざりしているところです。

私は、ラタトゥイユは、つけ合わせに使ったほうがいいと思うのです。ここに男性は野菜が余り好きではないようなことが書かれておりますけれども、私も最近、サラダのミックスレタスをたくさん植えておまして、それも毎日出てきます。もううんざりしているのですけれども、やはり食べ方をもう少し考えていったほうがいいと思います。例えば、温製サラダもありますね。ミックスサラダの上にベーコンとかサケの薄切りなどを乗せて、温製のドレッシングをかけて食べる。そうすると、子どもも食べるのではないかと思います。あるいは、煮た野菜を食べさせる方法を考えていくということです。ミネストローネなど、野菜をたくさん入れたスープにすとか、いろいろ考えてやったらどうかと思って

おります。

マルシェについては、きょうは市場の武藤委員もおいでですけれども、消費拡大フェアなどをやられておりますので、それをマルシェに近づけたようなやり方で取り組んでいただければ、札幌市民にもう少し浸透していくのではないかと考えておりますし、市場のアピールにもつながっていくのではないのかと思っております。

それから、さとらんどはの活用です。さとらんどは、交通の便が非常に悪いです。あれだけの広大な敷地があるのですから、札幌市は、あそこら辺にもう少し大きなマルシェの店を構えていただきたいのです。あそこには、農業支援センターもありますので、そういったところとタイアップして、札幌市民が行って楽しめるようなマルシェを何とか展開していただきたいと思っております。

取りとめのない話で済みません。

○荒川会長 今、市場のお話が出ましたが、武藤委員、いかがですか。

○武藤委員 市場の立場というより、食育の立場で申し上げますと、市場ではいろいろなことをやっていますけれども、幼稚園とか、その辺からいろんなものを食べさせるということが一番大事だと思いますし、やっぱりおいしいものを食べないと子どもは嫌いになります。一番おいしいものは、特に野菜は新鮮なものだと思うのです。食育としてできるかどうかわかりませんが、学校の中に農園があるのか、農園をどこかに持って、そして、みんなでとりに行って食べるとか、小さいころからおいしいものを食べるような食育をしていかないと、やっぱり野菜が嫌いという大人になってしまうと思いますし、実際にそういう大人が多いです。札幌市として、そういうところからやられてもいいのではないかと思います。私は、市場の立場とは別に、小さい子どもたちから食べさせたいという気持ちがあるので、そう思うのです。

○荒川会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

北海道内の道の駅というのは、どこに行っても人ばかりで、積んである野菜はあっという間に売れていくという状況があります。残念ながら、札幌市の場合は、道の駅みたいなところが少ないのです。ただ、私が食育関連で関わりのあるコープさっぽろのご近所やさいというのは、普通の流通している野菜とは別に、はね品を集めています。あれがすごく売れているらしいのです。そういう仕組みが市民の中に浸透していくと、少しずつ食生活の中に自然な形で取り入れられていくと思います。

ほかの委員の皆様も、何かお考えがあればぜひお願いしたいと思います。

○高橋委員 意見は大分出尽くしていると思いますけれども、一番基本的なところは、金額とか開催の要領も重要ですが、一番は、今ここで初めて資料を拝見して、これがどういうふうに広報されているのかということで、広報の部分もかなり大事です。知られていないところに人が足を運ばないといえますか、まず最初に、どうやって一般市民に知らせるのかという部分が重要かと思えます。

その後、知らせる内容についても、先ほどのように開催の時間とか金額的なものとか、いろんな要素があるかと思えますけれども、食育とは直接関係ないですが、そういった部分も重要だと思います。

○荒川会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○石塚委員 先ほど、おいしい野菜を食べるということで、私のところでは、屋上でトマトをつくっておりまして、桑園のビルで170個のプランターでやっています。それで、ご近所のひまわり保育園から、実は、屋上の一角で自分たちでトマトをつくらせてほしいというご依頼があったのです。というのは、その保育園は、まちの中なので畑がないのです。子どもたちにつくる喜びを伝えたいので、見学に行ってもいいですかと言われたので、見学だけではもったいないから、保育園用のプランターを置くので、毎度、水やりに来てくださいねと言うと、保育園の3歳の子が、早く赤くなれ、早く赤くなれと合唱するのです。これがすごくかわいいのです。そうすると、子どもたちは、自分がつくったものをやっぱり食べるのです。そして、粗末にしません。トマトの成長が見られるわけです。

ただ食べなさいと言うのも大事ですが、例えば、お家の中で、ベランダでもプランターが一つあれば何でも家庭菜園ができるので、そういった野菜をつくるという方向ですね。それこそ保育園、幼稚園、小学校、中学校で体験しながら、また、お家でも一つ、二つのプランターで100個のトマトができますので、そういったことを体験して、おいしさがわかり、また、つくってくださっている方の苦勞を知り、そうすると、粗末にしくなくなるとか、そういうストーリーが食育の中にあるとすてきだと思いますし、食べ物を大事にして食べるのではないかと思いました。今後、計画の中に入れていただけるようお願いしたいと思います。

○荒川会長 ありがとうございます。

私どもも、食育の調査研究の中で、保育園や幼稚園でトマト栽培をやっている子どもたちには野菜嫌いが少ないというデータを持っていますが、やっぱり体験はすごく大事なのです。自分でつくったピーマンなら食べられるとか、そういうことが現実的にありますので、そういったことを含めた形で、今後、野菜の摂取量を伸ばしていくことが大事かと思っています。

また、札幌市ではスーパーとの連携を打ち出されていますけれども、今、コンビニでも、野菜の摂取量に相当気を使って食べようということを推進してくださっているところが随分あるのです。流通業者を少しでも連携してふやしていくということも市民に訴えていく上ではとても大事だと思いますので、今後、札幌市の平成30年度の計画が順調に推移して、その連携を強めていくと。先ほど、情報がどういうふうに伝わっているかということがありましたので、これだけのプログラムがちゃんと市民に伝わるような、連携して伝えるという仕組みづくりがすごく大事かと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、皆さんからほかにご意見などはありませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○荒川会長 事務局に進行をお返ししたいと思います。

## 5. 閉 会

○事務局 (小田原健康企画担当部長) どうもありがとうございました。

皆様から数多くの貴重なご意見をいただきましたので、それを参考にさせていただいて、今後、食育関係団体や、地域、学校関係、企業と連携を進めながら、この計画の取組も進めてまいりたいと考えております。引き続き、皆様にもご協力をお願いいたします。

本日は、皆様、長時間にわたりまして、本当にありがとうございました。

以上をもちまして、平成30年度札幌市食育推進会議を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

以 上